

(仮称) 医科大学院大学準備委員会 (第4回) 会議録

日 時	令和4年11月28日(水) 午後3時00分から午後4時30分まで
場 所	グランディエール ブケトーカイ (4階 ワルツ)
出席者 職・氏名	出席委員:10名(敬称略) 田中一成、伊藤 裕、岩井一宏、浦野哲盟、木苗直秀、齋藤昌一、 中西勝則、宮地良樹、渡邊裕司、渡邊昌子 ※齋藤昌一委員はwebによる参加 事務局 森副知事、山口県参与、八木健康福祉部長、後藤健康福祉部長代理、 田中健康福祉部参事、大石健康福祉部政策管理局長、高須医療局長、 赤堀健康局長 ほか
議 題	1 想定する研究分野 2 「養成する人材像」の要点 3 附属病院に関する基本方針 4 取得できる学位、入学定員の方向性
配付資料	議事次第 委員名簿 資料1 第3回準備委員会の概要 ① 第3回準備委員会 主な意見 ② (仮称) 医科大学院大学 基本理念・基本方針(案) ③ (仮称) 医科大学院大学準備委員会の進め方(案) 資料2 (仮称) 医科大学院大学の研究分野のイメージ(暫定案) 資料3 「養成する人材像」の要点(案) 資料4 附属病院に関する基本方針(案) 資料5 取得できる学位(案)、入学定員の方向性(案) 資料6 基本構想の策定に向けた審議状況の整理 参考資料1 第1回準備委員会 主な意見 参考資料2 第2回準備委員会 主な意見 参考資料3 附属病院の方向性(第3回委員会資料) 参考資料4 (仮称) 医科大学院大学準備委員会設置要綱

## 1 審議内容

八木健康福祉部長から資料1により「第3回準備委員会の概要」について、資料2により「想定する研究分野」について、資料3により「『養成する人材像』の要点」について、資料4により「附属病院に関する基本方針」について、資料5により「取得できる学位、入学定員の方向性」について説明した後、各委員による議論を行った。

## (1) 主な意見

### ア 想定する研究分野

- ・細分化している内科系は取り組むべき研究分野である。
- ・NBM (Narrative Based Medicine) という「個人の物語」に着目した医療は、県民の“幸せ”や“生きがい”を考える新たな方向性である。
- ・「健康長寿」の切り口で浜松医大を補完できる分野に取り組めるとよい。
- ・医工連携やフードサイエンスなど、様々な分野、機関との連携を想定した研究分野は特徴になる。
- ・「臨床を志向した大学院」であることを表現すべき。

### イ 「養成する人材像」の要点

- ・養成する人材像を医師だけに限定するのではなく、幅広く“医療人”と表現するのが適当である。
- ・研究・臨床の双方に取り組む Physician scientist の育成が必要である。
- ・「優れた“医学者”」を養成すべきかは、よく検討する必要がある。
- ・「医療分野のリーダー」とすれば、医師と医師以外を包含した上で、異なる視点から「健康長寿」という同じ目的を目指すことを表現できる。

### ウ 附属病院に関する基本方針

- ・「地域医療」や「連携交流」を附属病院が主体となって担うことは困難であり、医科大学院大学の機能として考えるべきである。
- ・附属病院の設置には多くの課題があるため、行政として今から対応を考えていくことが必要である。

### エ 取得できる学位、入学定員の方向性

- ・取得できる学位は博士（医学）とすることが適当である。
- ・入学定員を多くする場合、教官も多く必要になる。比較的小規模の方がよい。

## (2) 第5回準備委員会の審議方針

「想定する研究分野」、「養成する人材像」などの項目については、次回の委員会で継続審議することについて了承を得た。